

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
 大阪市中央区道修町3-3-10
 大阪屋道修町ビル3F
 06-6232-1095

「龍馬が生きた時代」50名が参加

9月24日(金)松浦昭さん(兵庫県立大学経済学部教授)を招いて「龍馬が生きた時代」—開国から維新へ—の講演会を開催しました。会場満杯の50名が参加しました。前回「幕末の通貨戦争」の講演が大好評であったことから再度お願いし3年振りに開催したものです。

講演要旨

何が真実なのか疑ってかかる必要があります。テレビの影響は大きく、異なったイメージがつくられています。テレビでの山内容堂役は俳優の近藤正臣さんで60歳以上に見えますが実際の容堂は30代です。岡田以蔵はこれまで悪者イメージでしたが「龍馬伝」ではプラスイメージとなっています。司馬さんは膨大な歴史資料を読んでおられ、すばらしい方ですが、当然小説ですからフィクションがあります。龍馬の写真や銅像ではふと右手を突っ込んでいます。何を持っているのか。テレビでは撮影の際にピストルを写していましたので、私たちはピストルだと思ってしまう。しかし万国公法(法律書)ではないかとも言われています。真実はわかりません。

なぜ江戸時代が270年も続いたのか、なぜ徳川幕府が崩壊したのか、などたえず疑問をもつことが大事だと思います。江戸時代の評価についてですが、恐怖政治が続いていたら270年も続くでしょうか。まああの暮らしができていたのではないかと思います。明治時代の近代化を高く評価するために、逆に江戸時代の封建制をより以上に否定した可能性があります。

ペリーはアメリカ東海岸を出発し大西洋からアフリカを南下しインド洋から香港を經由して長期間かけて日本にきています。フィルモア大統領の親書をもって来航したのです。軍事的圧力説がありますが、大統領からは発砲厳禁の指示がありました。その時ペリー58歳、一方幕府の責任者老中・阿部正弘はまだ33歳でしたが大変有能でした。直接交渉にあたった下田奉行所などの役人も決して無能ではなかったのです。また幕府は、オランダを通じてペリーの来航も事前に知っていました。大統領の親書を持つペリーは全権大使のため、日本の国家元首(将軍)と謁見したいと主張しました。幕府は「国にはその国の国法がある」との正論をたたかわせました。

テレビではもうすぐその場面が来ますが、武器弾薬を運んだ海援隊のいろは丸が紀州藩船と衝突し沈没します。御三家の紀州藩と外様の土佐藩では勝ち目が無いのが明らかですが、龍馬は『万国公法(国際法)』をもとに決めようと交渉し賠償させました。龍馬が構想したものに「船中八策」があります。幕府は政権を朝廷に返し、政令は朝廷から出す。二院制を設けて公議で決める。人材を登用し、行政を改革するなどの概要の八策です。龍馬の発想の豊かさが感じられます。

松浦教授は1時間にわたって、「幕末」の時代を語っていただき、感想や質問に判りやすくこたえていただきました。その後、教授を交えて手作り料理に舌鼓をうちながら交流しました。

(文責・事務局)



(松浦 昭さん)

坂本龍馬ゆかりの京都伏見を散策

9月24日の松浦昭氏(兵庫県立大学教授)「龍馬が生きた時代」—開国から維新へ—の講演をうけて、10月10日(日)に大阪損保革新懇とアイクル共催で京都伏見散策を企画しました。

坂本龍馬ゆかりの京都・伏見をめざして9名が京阪電車中書島駅に集合し。江戸時代から明治にかけて京都と大阪を船で結ぶ航路の港町として重要な役割を果たした伏見港跡近くの船着場から風情あふれる屋形舟・十石舟に乗船して散策がスタート。当時の淀川は、京都と大阪を結ぶ大動脈で米や酒などの物資と、勤皇の志士や新撰組なども含めて多くの人を運ぶため、川幅8m不足らずの中をたくさんの舟が、大阪からは途中枚方で一泊するなど一昼夜かけて往来していたとのこと。私たち乗船者30名は船頭さんの指示で舟が傾かないように左右のバランスをとって座り、伏見の古い家並みと景色を眺めながらゆっくりと進みます。途中、三栖の閘門(みすのこうもん)で資料館を見学し、舟を乗り換えて約50分かけて元の船着場に戻りました。

その後、大倉記念館で当時の酒造りの道具や工程を見学し、利き酒をいただき大いに満足しました。昼食後、秋祭り賑わう御香宮神社に参り、小堀遠州ゆかりの石庭を見学。そして坂本龍馬が定宿としていた薩摩藩御用達の船宿旅籠「寺田屋」を訪問しました。NHKの「龍馬伝」の影響と3連休の中日で



もあり多数の観光客などでにぎわっていました。部屋ごとに額や掛け軸が飾られており、龍馬が刺客に襲われた部屋、女将お登勢の部屋や風呂場などをゆっくり見学し当時を偲びました。さらに伏見夢百衆でコーヒー・ケーキセットで休憩しながら親睦も深めました。今回は交通社による企画への参加でしたが、天気にも恵まれ参加者が大いに満足できた散策となりました。(H)

沖縄県民と国民の思いを伊波洋一さんへ

— 沖 縄 知 事 選 —

沖縄の将来と日本の平和と主権、日本の進路を左右する沖縄知事選挙が11月11日告示、28日投票で行われます。日本共産党と沖縄社会大衆党、社民党が推薦する伊波洋一(宜野湾市長)さんが立候補を表明しました。

伊波洋一さんは「普天間基地の早期閉鎖・返還、県内移設断念、日米共同発表撤回、海兵隊撤退」や「沖縄の特性をいかした産業・経済の振興」などを公約しています。「戦後65年、本土復帰38年の節目に行われる重要な選挙」と位置づけてたたかわれます。

10・23 品川さんを囲むつどい

全国を駆けめぐり活躍されている品川正治さんが来阪されます。24日の寝屋川革新懇での講演に先立ち急遽「品川さんを囲むつどい」が実現できることとなりました。今の政治情勢と近況を語っていただきます。

急ではありますが、この機会にぜひご参加ください。

日時 10月23日(土)午後4時～6時
場所 アイクルの部屋(大阪屋道修町ビル3階)
会費 1500円 飲物と手料理を用意